

三菱UFJ 国内債券インデックスファンド

追加型投信／国内／債券／インデックス型

第37期末（2018年7月26日）	
基準価額	10,419円
純資産総額	3,092百万円
第36期～第37期	
騰落率 (上昇率・下落率)	+0.0%
分配金合計	60円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

第36期（決算日：2018年4月26日）

第37期（決算日：2018年7月26日）

作成対象期間

(2018年1月27日～2018年7月26日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、三菱UFJ 国内債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、NOMURA-BPI 総合に概ね連動する投資成果をめざして運用を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしく申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で閲覧できます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧およびダウンロード方法>

- ①右記ホームページにアクセス
- ②「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドを検索し、選択
- ③ファンドの詳細ページで運用報告書（全体版）を選択



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

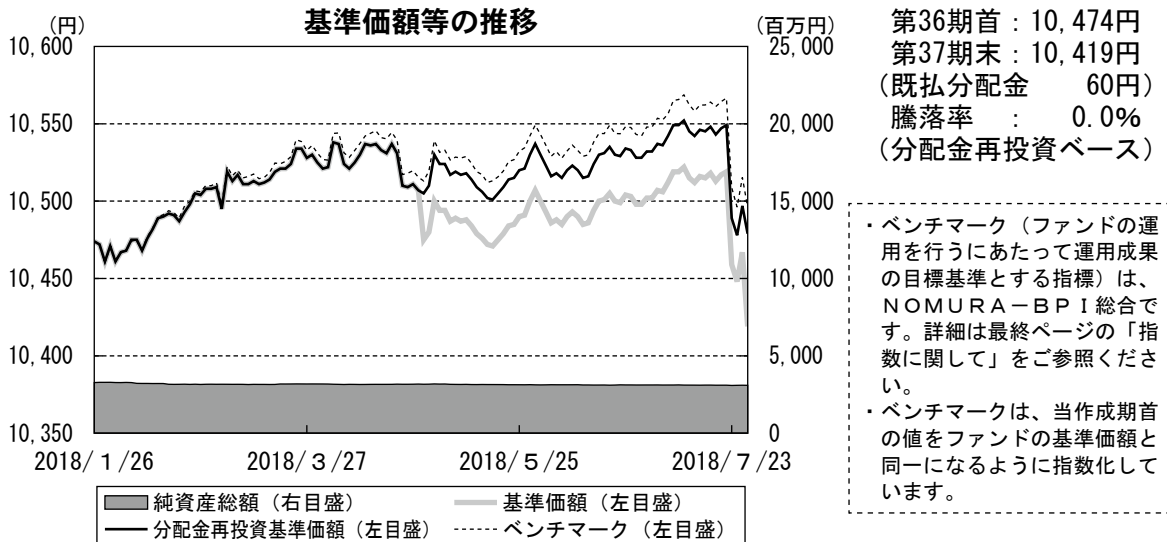
お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
(受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について (第36期～第37期：2018/1/27～2018/7/26)

基準価額の動き	基準価額は当作成期首に比べ0.0% (分配金再投資ベース) と、ほぼ横ばいとなりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率 (0.2%) を0.2%下回りました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の変動要因

上昇要因	日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続などを背景に、国内債券市況が上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	日本銀行の金融政策見直しへの警戒感および信託報酬等のコストが基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2018年1月27日～2018年7月26日)

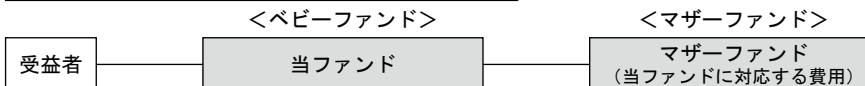
i 記載された金額は、期間中にファンドを介して受益者のみなさまが間接的にご負担いただいた費用です。

項目	第36期～第37期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	20円	0.186%	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率×(作成期中の日数÷年間日数)
(投信会社)	(8)	(0.080)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(8)	(0.080)	交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.027)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	20	0.187	
作成期中の平均基準価額は、10,497円です。			

- (注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

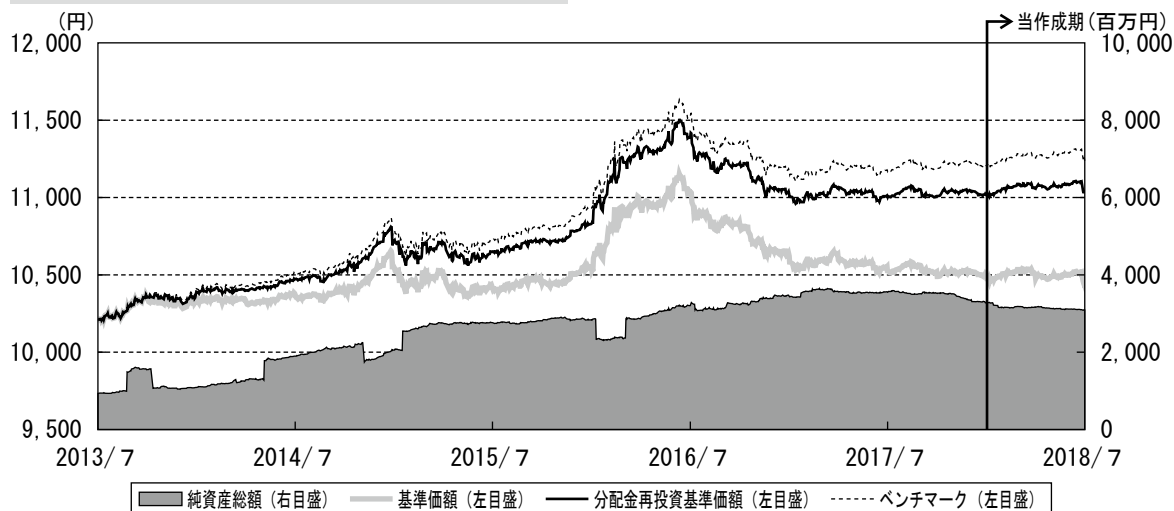
【費用開示の仕組み】

下記 部分の費用が費用明細に含まれています。



最近5年間の基準価額等の推移について

(2013年7月26日～2018年7月26日)



・分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2013年7月26日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/7/26 期初	2014/7/28 決算日	2015/7/27 決算日	2016/7/26 決算日	2017/7/26 決算日	2018/7/26 決算日
基準価額 (円)	10,212	10,354	10,405	11,013	10,513	10,419
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	120	120	120	120	120
分配金再投資基準価額騰落率	—	2.6%	1.7%	7.0%	-3.5%	0.2%
ベンチマーク騰落率	—	3.0%	2.0%	7.4%	-3.1%	0.6%
純資産総額 (百万円)	935	1,898	2,760	3,205	3,550	3,092

・ファンド年間騰落率は、ベンチマーク年間騰落率と比較するため、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

ベンチマークは、NOMURA-BPI 総合です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

(第36期～第37期：2018/1/27～2018/7/26)

◎国内債券市況

- ・日本銀行の金融政策見直しへの警戒感などから金利が上昇し、国内債券市況が下落する局面があったものの、作成期を通してみると、日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続などを背景に、国内債券市況が上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

<三菱UFJ 国内債券インデックスファンド>

- ・当ファンドはマザーファンドに資産のほぼ全額を投資したことにより、基準価額（分配金再投資ベース）はマザーファンドとほぼ同様の推移となりました。

<三菱UFJ 国内債券マザーファンド>

基準価額は当作成期首に比べ0.2%の上昇となりました。

- ・資産のほぼ全額を債券（先物を含む）に投資し、高い公社債組入比率を維持しました。
 - ・ベンチマークであるNOMURA-BPI総合の構成銘柄を種別や年限等の属性でグループに区切り、ベンチマークの各グループの比率とポートフォリオの同じグループの比率を極力近づけるように、ポートフォリオを構築しました※。
- ※一般的に、このような手法を層化抽出法といいます。

(ご参考)

利回り・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

作成期首（2018年1月26日）

作成期末（2018年7月26日）

最終利回り	0.2%	➡	最終利回り	0.2%
直接利回り	1.0%		直接利回り	0.9%
デュレーション	8.9年		デュレーション	8.9年

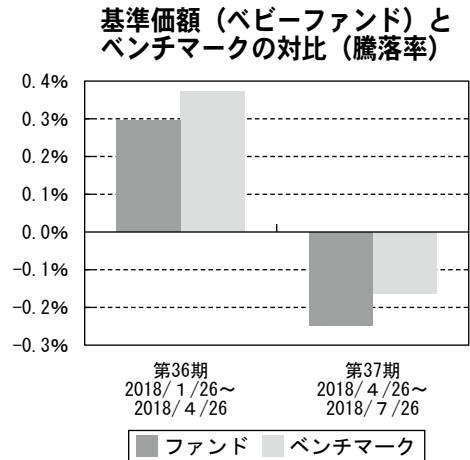
- ・数値は債券現物部分で計算しております。
- ・最終利回りは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について (第36期～第37期：2018/1/27～2018/7/26)

i ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

＜三菱UFJ 国内債券インデックスファンド＞
ベンチマークとのカイ離は $\Delta 0.2\%$ 程度となりました。

- ◎マザーファンド保有以外の要因
ファンドの管理コスト等による影響は $\Delta 0.2\%$ 程度でした。
- ◎マザーファンド保有による要因
マザーファンド保有による影響は 0.0% 程度でした。



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算していません。

＜三菱UFJ 国内債券マザーファンド＞

ベンチマークは 0.2% の上昇となったため、カイ離は 0.0% 程度となりました。

ベンチマークとの差異の主な要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・評価時価差異要因※
※ファンドの基準価額とベンチマークで算出に用いる債券時価が異なるため生じる要因です。

(主なマイナス要因)

- ・ありません。

分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第36期	第37期
	2018年1月27日～2018年4月26日	2018年4月27日～2018年7月26日
当期分配金	30	30
（対基準価額比率）	0.286%	0.287%
当期の収益	18	14
当期の収益以外	11	15
翌期繰越分配対象額	835	819

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

＜三菱UFJ 国内債券インデックスファンド＞

- ・ベンチマークに概ね連動する成果をめざすべく、ファンドの資産のほぼ全額をマザーファンドに投資し、高い実質公社債組入比率を維持します。

＜三菱UFJ 国内債券マザーファンド＞

- ・ベンチマークに連動する投資成果をめざすべく、ファンドの資産のほぼ全額を公社債（先物を含む）に投資し、高い公社債組入比率を維持します。
- ・組入銘柄の見直しと投資比率の調整を適宜行い、種別構成比についてもベンチマークの比率に近づけるように運用します。

お知らせ

i 受益者のみなさまに知っていただきたいファンドに関するお知らせを掲載しています。

◎約款変更

- ・該当事項はありません。

◎その他

- ・本資料内における旧シティ債券インデックスは、ブランド変更に伴い、FTSE債券インデックスの名称に変更しています。
- ・2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

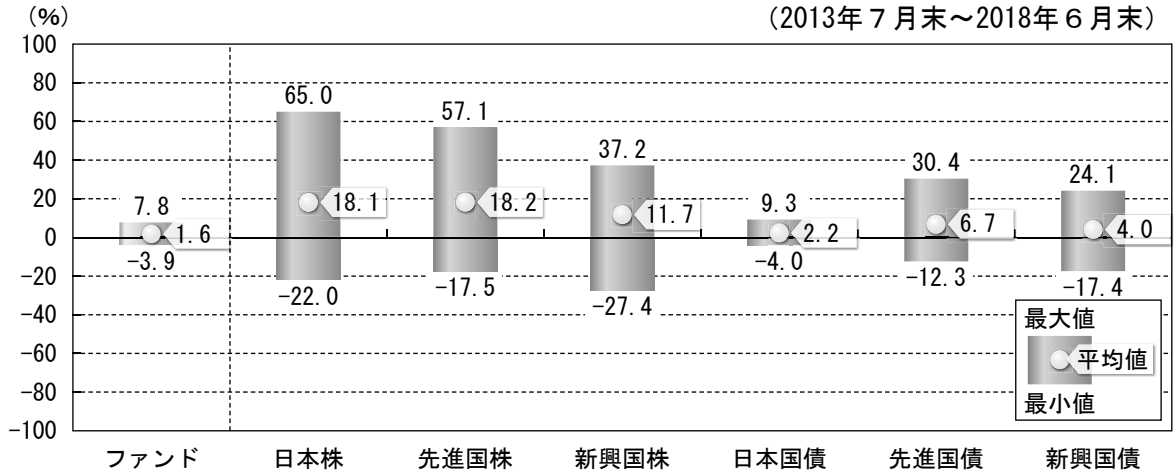
*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／債券／インデックス型	
信託期間	無期限（2009年2月2日設定）	
運用方針	三菱UFJ 国内債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、NOMURA-BPI 総合に概ね連動する投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。	
主要投資対象	当ファンド	三菱UFJ 国内債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	三菱UFJ 国内債券マザーファンド	わが国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	わが国の公社債を実質的な主要投資対象とし、わが国の公社債の指標であるNOMURA-BPI 総合に概ね連動する投資成果をめざします。	
分配方針	経費等控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

i 当ファンドの基準価額の変動率を他資産と比較することでファンドの値動き特性を捉えるのにお役立てください。



○上記は、2013年7月から2018年6月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

○各資産クラスの指数

- 日本株：TOPIX（配当込み）
- 先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）
- 新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
- 日本国債：NOMURA-BPI（国債）
- 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本）
- 新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2018年7月26日現在)

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第37期末 2018年7月26日
<input checked="" type="checkbox"/> 三菱UFJ 国内債券マザーファンド	100.0%

・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

上記 の組入ファンドについて、後掲「組入上位ファンドの概要」の期間が当ファンドの期間と異なる点にご留意ください。

純資産等

項目	第36期末	第37期末
	2018年4月26日	2018年7月26日
純資産総額	3,162,384,318円	3,092,484,681円
受益権口数	3,019,091,050口	2,968,170,438口
1万口当たり基準価額	10,475円	10,419円

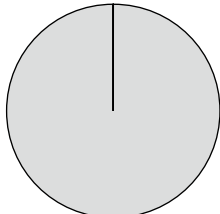
・当作成期間中（第36期～第37期）において追加設定元本は467,037,700円
同解約元本は 620,483,086円です。

種別構成等

【資産別配分】

コール・ローン等

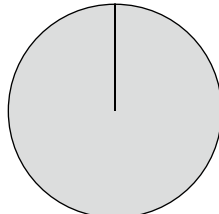
0.0%

マザーファンド受益証券
100.0%

【国別配分】

その他

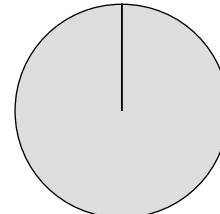
0.0%

日本
100.0%

【通貨別配分】

円

100.0%



- ・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。
- ・【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

組入上位ファンドの概要

三菱UFJ 国内債券マザーファンド

(2018年5月21日現在)

基準価額の推移



組入上位10銘柄

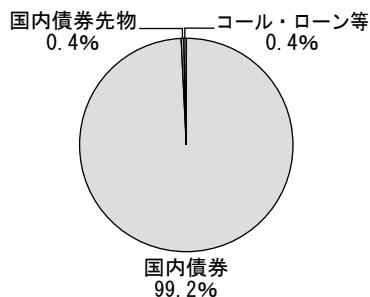
(組入銘柄数：608銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	第312回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.0%
2	第122回利付国債(5年)	債券	日本	国債	1.0%
3	第132回利付国債(5年)	債券	日本	国債	1.0%
4	第344回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.0%
5	第128回利付国債(5年)	債券	日本	国債	0.9%
6	第125回利付国債(5年)	債券	日本	国債	0.9%
7	第349回利付国債(10年)	債券	日本	国債	0.9%
8	第129回利付国債(5年)	債券	日本	国債	0.9%
9	第339回利付国債(10年)	債券	日本	国債	0.9%
10	第332回利付国債(10年)	債券	日本	国債	0.9%

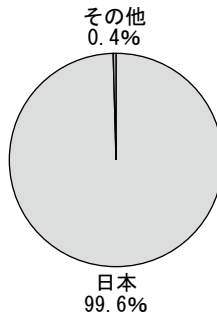
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

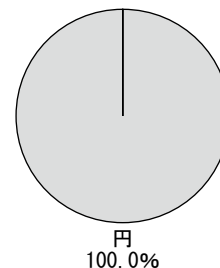
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	0円	0.000%
(先物・オプション)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、13,824円です。

(2017年5月23日～2018年5月21日)

- (注) 1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のもので、費用項目の概要については、2ページの注記をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

190086

指数に関して

○ファンドのベンチマークである『NOMURA-BPI 総合』について

NOMURA-BPI 総合とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債の他、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI 総合は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPIとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（国債）はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI（国債）は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。